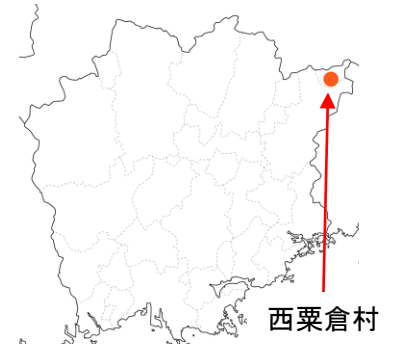


農地ナビ（農地情報公開システム）を活用して農地バンクを通じたマッチングを実現 （岡山県西栗倉村）

地域の状況

- 岡山県の北東部にある西栗倉村の経営耕地面積は126haと村の総面積の3%に満たず、経営規模、販売額ともに小規模な経営体が中心となっている。
- 近年は農業従事者の減少及び高齢化、農地の分散錯雑等が農地の確保、有効利用を図る上での課題となっている。
- 農地については一筆の面積が小さい、圃場整備が実施されていない、等の条件が悪い農地が多く、引き受け手が見つかりにくく、流動化が進まない。



取組の内容

- 農業委員が農地パトロールにより一筆毎の耕作状況を把握し、農業委員会事務局において農地ナビ（農地情報公開システム）の台帳及び地図データへ結果の登録・整理を実施。
農地ナビには農地所有者の氏名、年齢、耕作状況のほか、農地の利用意向も登録することにより地域の農地情報の一元的な把握と見える化を実現。
- 中山間地域等直接支払制度次期対策（R2～R6）の話し合いと並行し、人・農地プランの実質化に向けての話し合いを実施。
話し合いにはシステムから出力した地図を提供（写真）。
- 離農する農家の所在した全ての農地を農地ナビで確認し、それぞれの農地ごとに周辺の担い手に引き受けを働きかけた結果、村内で初の農地バンクを活用した地域の担い手への集積を実現。
鳥獣害被害の大きい農地は、担い手に受け渡す際に村の補助事業を活用し、防護柵を設置することで耕作条件を改善。

成果

- これまでに所有者が手放す意向を示した0.6haの農地を農地バンクを通じて集積。
- 農地の利用調整には農地のあらゆる情報を一元化することが重要であり、農地ナビで農地の利用状況が「可視化」が出来ることにより、受け手への働きかけが円滑に進められる。
今後、村内では集落営農法人の設立が検討されており、農地の状況に適した作物の栽培を検討する際にも農地ナビを活用していきたい。
（農業委員会事務局）

